

## 年頭所感

日本小児科学会 会長 高橋 孝雄



新年を迎えるにあたり、一言、ご挨拶させていただきます。

公益社団法人である日本小児科学会が遂行すべき公益事業とは、子どもの健康・人権・福祉を守り向上させるために、小児科医を育成すること、小児科学に関する研究を推進すること、そして小児医療全般の進歩・発展をはかることです。

昨年のこの場でも書かせて頂いたように、医師の育成は学会の将来を左右する最重要の公益事業です。今年はプログラム制による新たな専門医制度が全基本領域においてスタートします。平成29年度からいち早く開始されたプログラム制による小児科専門医制度（暫定制度）の成果や反省点を踏まえて、他の領域の手本となるような専門医制度を維持、発展させていくことが我々の使命です。優れた小児科医を育てていくことが、小児医療提供体制の維持、強化に不可欠であることは自明です。これを好機と捉え、医師育成のためのインフラを整備し、なおかつ小児科医の就労環境が改善するよう、学会会員が力を合わせて前進していく年となることを祈念しております。

一方、会員以外の方々への直接の働きかけ、啓発活動も重要な公益事業です。小児科学会では市民公開講座の開催や学会ホームページ上での情報発信などを通じて、広く国民のための事業を推進しております。外科系を含む小児医療を担う他の学会や看護師、薬剤師、療法士などコメディカルの方々にも積極的にアプローチし、子どもの健康・人権・福祉のために継続的に事業を展開させていきたいと思っております。

学術集団である以上、学問としての小児科学の発展に貢献することも立派な公益事業です。自然科学としての小児科学はまさに大きな飛躍の時を迎えております。今年も小児科領域において日本から多くの研究業績が発信されるよう、皆様と一緒に力を尽くして参りたいと思っております。一方、社会・人文科学の観点からの事業も益々重要になっております。他領域との連携、官庁や市民団体との連携も不可欠です。年を追うごとにこれらの連携事業が充実していくよう、不断の努力を続けたいと思っております。

学術団体にとって国際化推進は困難かつ重要な公益事業です。例えば今年は、研究者の育成を目的とした米国小児科学会との共同企画が開始されます。我が国の若手小児科医に、海外の優れた研究指導者と巡り合うための機会を提供するプログラムです。また、アジア諸国との連携を強化することにより、国際舞台における本学会のプレゼンスを一層高めていきたいと考えております。発展途上国における医学教育・医師育成制度を充実させるために、小児医療先進国である我が国のさらなる国際貢献が期待されております。医療のみならず、研究、そして医学教育の分野でも、我が国が一流の輸出国となるよう、今年一年、力を合わせて参りましょう。

好機は続きます。本年も会員の皆様と共に邁進して参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。